

## 「矯正歯科領域での専門医の制度の必要性」

厚生労働省医政局歯科保健課 和田 康志

わが国では、保健・医療・福祉の連携の下、世界最長の平均寿命や高い保健医療水準を達成してきた。その一方、急速な少子高齢化、国民意識の変化等の環境の変化に直面しており、社会保障制度を将来にわたり持続していくため、医療保険制度をはじめ、様々な対応を図ってきた。

他方で、歯科保健医療を取り巻く状況は、子どものむし歯の減少や8020達成者の増加等にみられるように歯及び口腔の健康状態は着実に改善している一方で、高齢化の進展に伴い、歯科医療機関を受診する患者は基礎疾患を有するケースや寝たきりで外来に受診できないケースなど多様化していることから、「治療中心型」から「治療・管理・連携型」にシフトしつつある。

さらに、近年は、インターネットの普及に伴い、歯科医療に関する情報が入手しやすい環境となっており、国民の歯科医療に対する関心は高まっている。昨年12月に報告された「歯科医師の資質向上等に関する検討会」の中間報告（「歯科保健医療ビジョン」）でも、あるべき歯科医師像として、「歯科医療の信頼性を高め、国民・患者のリテラシー向上にも寄与することから、歯科医師は、国民に対する健康教育や患者に対する診療等において、歯科医療に関する正確かつ適切な情報の発信及び診療情報の記録及び開示等により、国民・患者の歯科医療機関や治療等の選択に貢献することが求められる。」と提言している。

一般の医療法改正で、医療機関における広告の取扱が見直されるなど、適切な情報発信ができるような仕組みが構築されつつある。併せて、各関係団体が自主性をもって国民や患者に対して歯科医療に関する正確かつ適切な情報の発信ができるような仕組みを構築することが求められ、広告可能な専門医となるよう、矯正分野の各団体が団体の垣根を越えて議論を行うことが重要であろう。

今後、日本矯正歯科協会をはじめとした矯正団体の動きに注目したい。

### 【略歴】

和田 康志（わだ・こうじ）

2001年3月	日本大学松戸歯学部卒業
同年4月	厚生労働省医政局歯科保健課 歯科衛生係
2002年4月	富山県厚生部健康課 医員
2005年4月	厚生労働省医政局医事課試験免許室 主査
2006年7月	同 試験専門官
2008年4月	厚生労働省医政局 歯科保健課 歯科医師臨床研修専門官
2011年4月	厚生労働省保険局医療課 課長補佐
2014年7月	厚生労働省医政局歯科保健課 歯科医療専門官
2015年4月	同 課長補佐
2017年3月	筑波大学大学院人間総合科学研究科（ヒューマン・ケア科学専攻）修了